



会員の皆様へ



会員の皆様には、日頃から物心両面のご支援をいただき、誠にありがとうございます。本年は後援会が再開して2周年になりますが、コロナ感染症対策によって不本意ながら、会員皆様の参加をいただく大きな催しができなく大変残念に思っております。

コロナ感染症が治まり、いろいろな催しを一日も早く実現できる事を願っております。本来なら桜の木の下で、盛大に笑って挨拶を交わしたく考えております。そして、ウクライナのこと、北方領土のこと、尖閣諸島のこと・・・などなど、介護施設のこと、年金カットのこと・・・などなど、いろいろな話題を持ち寄って懇談したいものです。

去年はコロナに明け、コロナに暮れた一年でした。その中で春に県知事選挙が、秋には総選挙が施行されて、県政に対する審判と、国政に対する審判が問われました。千葉県知事選挙、総選挙では会員皆様の大きなご支援をいただき、誠にありがとうございました。

総選挙では残念ながら政権交代の実現には至りませんでした。自民党の議席数を大きく減らし、野党統一候補の前進を勝ち取る事ができました。県知事選挙では金光候補を支援して選挙を闘いましたが、残念ながら力及ばず、森田県政から熊谷県政に刷新される結果になりました。

7月には参議院議員選挙が予定されています。

参議院議員選挙へ挑戦するさいとう和子さんには、後援会として必勝を期して取り組んで参りますので、会員皆様の大きなご支援を宜しくお願い致します。

さらに来春には県議選、市議選が予定されています。憲法を守り、国民・県民・市民の生命と暮らしを守り、大切にす

北部後援会 田中 邦男

さいとう和子さんを国会へ



「参院選を前に政治を語り合う集い」を4月17日にWAVE101大ホールにて党と後援会の共催で開催。

ジャーナリストの山田あつしさんと党元衆議院議員さいとう和子さん(右写真)の対談をみせ麻里市議の司会で行いました。

ウクライナへのロシア侵略問題から切り出し、核共有や憲法9条で大丈夫なのかと大宣伝し、改憲とアメリカの高い兵器を買うなどの流れの危険性について、さいとう和子さんより決意表明お二人より次々と語られました。



山田さんより「防衛費を上げようとしているが、物価高、日本は0金利、給料が上がらない」世界経済と円安の問題が述べられ、さいとうさんより「金融を外需に頼る危機、食糧危機は既に始まっている」として、食糧もアメリカいいなりの輸入政策問題も提起されました。

山田さんから「エネルギー・食料の自給自足で地域を元氣にすることができる」と展望が語られ、「新自由主義ではなく、豊かになるための経済、人の力を生かそう」とさいとうさんより。

野党共闘へ、保守でも憲法で一致できる人はいる、戦争か平和かが問われている。翼賛体制への歯止めへ参議院選挙がかかっている。千葉選挙区は現在3人の議員のうち自民2人・立憲1人、自民の議席から共産党の議席へとさいとうさん、和子さんは力強く訴えました。

【参加者から】◇初対談1時間短く感じた。◇対談新鮮だった。◇さいとうさんを知った。国会議員になってほしい。応援します。◇山田さんよく来てくれた。◇山田さんから経済問題に世界の動向を聴けて興味深かった。◇憲法25条の権利を奪っていることについて、さいとうさんより話あり共感した。◇ウクライナ情勢、賃金が上がらないことも聞いて良かった。

許せない！ロシアのウクライナ侵略

「侵略やめよ」の世論でプーチン政権を包囲しよう！

ロシアはウクライナに対し、「戦争はしていない」「特別軍事作戦」だと強弁している。連日、テレビ・新聞報道で見る無差別爆撃が戦争でなくてなんだ。廃墟と化した街、爆撃から逃げ惑う人々、避難場所・病院・学校を狙い撃ちするロシア軍。

かつて「満州事変」「支那事変」だといって戦争であることを否定して、中国への侵略戦争を仕掛けた戦前の日本と重なる。「領土拡大」を狙う侵略者はいつも狡猾だ。

車体に白色で「Z」を描いたロシア軍の戦車・装甲車が市街地を攻撃する。「Z」は、「ロシアのために」「勝利のために」の頭文字だそう。だが「Z」は、ウクライナ国民にとっては恐怖の象徴であり、憎しみの象徴だ。

プーチン大統領は、核攻撃専門部隊に「特別警戒」命令を出し、核攻撃をちらつかせ世界を脅かしている。「攻撃されたら核攻撃でこたえる」と公言している。すでにロシア軍は、ウクライナ原発を攻撃した。AFP通信は、「原発施設に攻撃をくわえたのはロシアだけだ。テロ国家は今や核テロに走った」と糾弾した。

プーチン大統領の侵略合理化弁明は、どれも成り立たない。国連憲章は、紛争の平和的解決、武力行使の禁止を定めている。国連総会は、加盟国の7割超の国がウクライナでのロシアの武力行使停止、軍の「即時完全、無条件撤退」を求める決議を採択した。

二人を殺せば殺人者だが、百万人を殺せば英雄だ。殺人は数によって神聖化させられる。これは、チャップリンの映画「殺人狂時代」の台詞で、ナチスのヒットラーに対して発せられたチャップリンの痛烈な批判の言葉だ。

「ロシアによるウクライナ侵略はやめよ」の一点で、国際社会が団結し、ロシアのプーチン政権を世論で包囲しよう。

2022年3月25日

七里 一司